

魅力発信！えひめ農業

令和6年 11 月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、11 月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

目次

目次	1
11月のトピックス5選	3
農業女子が中学生に野菜栽培体験を通して、農業の魅力発信	3
「しまなみみんなのディッシュ」産品を県外シェフ等にPR	3
「日本一を目指したユウカリ産地振興の取組み」が全国表彰を受賞	4
つるむらさき精算会で実証結果を報告	4
収穫アルバイトの地域内連携による労働力確保	5
えひめ農業	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
新規就農者が家族経営協定を締結	6
麦作の振り返りと次年産に向けた栽培管理	6
わな猟スキルアップ第1回現地研修会（西条）を開催	7
青年農業者が県外視察研修会を開催	7
集落ぐるみで行うスクミリンゴガイ対策	8
第2回市民向け野菜栽培講習会を開催	8
新規就農者花木栽培講習会を開催	9
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	9
郷土料理を小学生親子に伝授	9
ブランド茶「結の霧ひめ」をはじめとする「うま茶」を県外でPR	10
四国中央市産業祭でティースタンドによりお茶の魅力発信	10
やまのいも「やまじ丸」を消費者にPR	11
■東予地方局 産地戦略推進室	11
いちご栽培環境モニタリングデータ活用実証プロジェクト第1回勉強会を開催	11
■今治支局 地域農業育成室	12
集落営農組織がいちご観光農園を開設	12
冬春トマトで市場ニーズに対応した品種を検討	12
農福連携に新たなさといも生産者が参加	13
（有）こんぱらが「豊かなむらづくり全国表彰」で農林水産大臣賞を受賞	13
新規就農者の仲間づくりに向け交流会を開催	14
えひめ地域鳥獣管理専門員と連携し鳥獣害対策を実施	14
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	15
上浦再編復旧園の新たな土壌流亡対策、土づくり実証を開始	15
島内での柑橘優良事例を学ぶ	15
■今治支局 産地戦略推進室	16
CO ₂ センサーでハウス内をモニタリング	16
「しまなみみんなのディッシュ」会員と農産加工品を県庁ロビーでPR	16
イタリア野菜栽培状況調査とイベント協議	17

■中予地方局 地域農業育成室	17
農業法人と福祉施設と農作業のマッチング	17
「愛媛お手伝いプロジェクト」参加者への収穫作業研修会を実施	18
青年農業者等がわな猟スキルの向上を図る	18
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	19
「七折小梅」の安定生産対策を目指したせん定講習会を開催	19
青年農業者とひめカレ生が農作業を通じて交流	19
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	20
トマトの高温対策等について先進地に学ぶ	20
農福連携の推進に向けた施設支援員の技術力向上	20
■中予地方局 産地戦略推進室	21
紅プリンセスのす上がり対策実証経過	21
秋播きパクチーの生育が順調	21
■南予地方局 地域農業育成室	22
水稻品種「にじのきらめき」の作付けが拡大	22
根域制限マルチ栽培が初収穫を迎える	22
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	23
今秋の異常高温に対応したいちご生産者支援	23
鬼北町で家族経営協定を締結	23
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	24
小学生に「愛南ゴールド」の魅力を伝承	24
南宇和高校が高校生農業アクション大賞で準大賞に選ばれる	24
集落水稲栽培の生産性向上と有機栽培の拡大に向けて	25
ブロッコリーにおけるドローン防除実証の進捗状況を生産者に情報共有	25
■八幡浜支局 地域農業育成室	26
「清見」の果皮障害軽減に向け実証試験を開始	26
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	26
ふるさとの味伝承&季節のスイーツ作り講習会を開催	26
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	27
農業展でアシストスーツの着用体験	27
西予市でふるさとの味を伝えるフェスタを開催	27
■八幡浜支局 産地戦略推進室	28
地元高校生への青ねぎ収穫体験授業により産地の認識を深めPRを実施	28
■農産園芸課 高度普及推進グループ	28
データ駆動型栽培に係るデータ分析・活用講習会を開催	28

11月のトピックス5選

標 題	農業女子が中学生に野菜栽培体験を通して、農業の魅力発信		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年11月7日	場所	四国中央市立川之江北中学校	
指導対象	さくらひめ四国中央会（5人）	連携機関	四国中央市農業振興課	
普及指導内容	○職業選択について考え始める中学2年生（126人）に、農業へ興味をもつことを目的に、農業女子が初めて企画した「食と農業」をテーマにした出前授業の実施を支援。 ○今回は、会員が「ねぎ」を用いて作物の生育をテーマに授業を行い、ネギの特性とペットボトルを使った栽培方法や管理上の留意点などを説明するとともに、作業方法等を実演し、は種作業等の実習指導や助言を行った。			
結果と今後	○中学生は、悪戦苦闘しながら土入れ、ねぎのは種や苗の定植、かん水作業を体験した。 ○今後、タブレット端末で生長を記録しながら各自で管理し、収穫までの作業を体験することとしている。 ○12月に四国中央市の農業や会員の農業経営を紹介する2回目の出前授業を実施し、さらに職業としての農業について中学生に魅力発信を行う。			
				

左：会員が栽培方法を説明
中：中学生が野菜栽培を体験
右：ねぎのペットボトル栽培

標 題	「しまなみみんなのディッシュ」産品を県外シェフ等にPR		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年11月11日	場所	今治市各地	
指導対象	しまなみみんなのディッシュ	連携機関	食ブランドマーケティング課	
普及指導内容	○「しまなみみんなのディッシュ」産品のPRと販路拡大支援の一環として、食ブランドマーケティング課と連携し、スイーツコンテスト審査員の平岩理緒氏を介して、県外のシェフ等4名*を対象に、産品の紹介や栽培ほ場の見学、意見交換を実施した。 ※金子氏（銀座ウエストのシェフパティシエ）、江森氏（洋菓子店メゾンジブレーのシェフ）、森田氏（パン職人）、並木氏（ジャーナリスト） ○なお、見学先は「ごまのkamiya」、「井上果樹園」、「ポパイズクラブ」である。			
結果と今後	○会員からは栽培の現状と苦勞、農産物の特徴をPR。 ○参加者からはスイーツやパンの原料として期待できる産品や供給量に係る質問のほか、「生産には大変な苦勞があるのがわかった」とのコメントをいただくなど、生産現場への理解も得て、今後の展開につなげるきっかけの場となった。 ○今後も県内外の実需者らと情報交換し、産品の情報提供と販路拡大につなげたい。			
				
ごまの栽培を説明		ごま製品3種類		有機栽培柑橘を紹介

標 題	「日本一を目指したユーカーリ産地振興の取組み」が全国表彰を受賞		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年11月21日～22日	場所	東京都（国立オリンピック記念青少年総合センター）	
指導対象	—	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○第12回農業普及活動高度化全国研究大会で、全国48事例の中から、本県代表として当室が普及活動事例「日本一を目指したユーカーリ産地の振興～“強み”を活かし、“弱み”を克服！産地強化を普及がサポート～」を発表。</p> <p>○本大会は、全国の普及指導員が集い、普及活動に係る優良事例や先進的な事例の紹介、意見交換によって、普及活動の高度化を図るもの。</p>			
結果と今後	<p>○審査の結果、生産面だけでなく、流通、販売、消費を含めたサプライチェーンや荒廃農地対策等の取組み等が高く評価され、全国農業改良普及支援協会会長賞を受賞した。</p> <p>○引き続きユーカーリ産地の強化を図り、関係機関と連携し地域農業の振興に努める。</p> <p>○本大会の様子はYouTubeで録画配信される。</p>			



左：ユーカーリの普及活動事例の発表
右：表彰された8事例の発表者

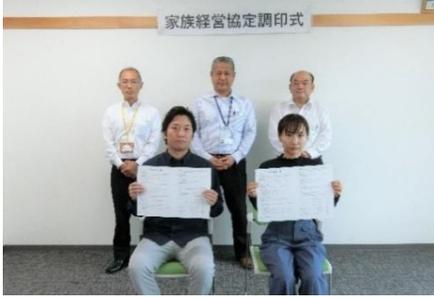
標 題	つるむらさき精算会で実証結果を報告		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年11月19日	場所	JA えひめ南 三間宮農センター	
指導対象	JA えひめ南 軟弱野菜部会員(10人)	連携機関	JA えひめ南、JA 全農えひめ	
普及指導内容	<p>○JA主催の同精算会において、被害が急速に拡大しているセンチウ等を対象とした土壌消毒、省力多収を目的とした直立誘引栽培について、本年の実証結果を説明した。</p> <p>○また、レシピ集の作成や県内外の販促イベントのほか、未利用の茎葉を活用した加工品開発の協議状況など、関係機関と連携した販売活動についても報告した。</p>			
結果と今後	<p>○土壌病虫害対策では、被害に悩む生産者が多い中、実証結果が極めて良好であったことから、次作では部会内で希望者を募って、集中的に取り組むこととなった。</p> <p>○直立誘引栽培の実証では、収穫位置が高く作業性が改善されることや光環境が良くなり葉の展開速度が上がることから、ハウスの生産者を中心に数多くの質問があった。</p> <p>○今後は、生産拡大に向けて、栽培マニュアルに付帯する経営指標の作成を行うため、生産者から経営収支等のヒアリングを行う予定。</p>			

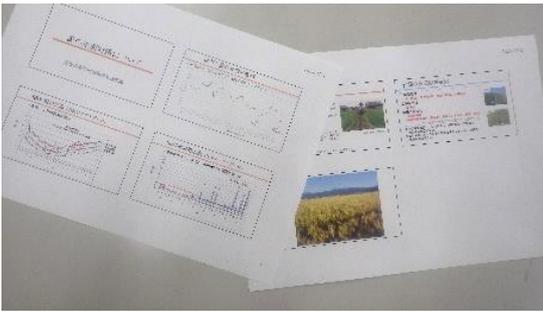


左：慣行区（上）と土壌消毒区（下）
右：生産者に取組状況を報告

標 題	収穫アルバイトの地域内連携による労働力確保		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和6年11月21日	場所	八幡浜市真穴・舌田（穴井公民館・マ ンダリン）	
指導対象	みかんアルバイト：真穴、川上、 舌間地区 63 人（就農意向者含む） 三崎雇用促進協議会員（6 人）	連携 機関	JA にしうわ、伊方町	
普及指導 内容	<p>○地域内連携によるかんきつ収穫期の労働力確保と継続雇用を図るため、温州地域のアルバイトに中晩柑地域での収穫アルバイトを紹介し、三崎地区での収穫作業従事を促すとともに研修制度を紹介した。</p> <p>○また、個別に今後の就農意向などを聞き取り、リピーターから研修生、就農へつながるよう誘導した。</p>			
結果と今後	<p>○中晩柑地域での収穫アルバイトに興味を持つアルバイトは多く、実際に来てもらえるよう誘導し、地域内連携による労働力確保につながった。</p> <p>○また、就農意向のある人も把握できたことから、それぞれの希望に沿ったアプローチを行い、研修制度の活用による就農に結びつけていく。</p> <p>○各地区の雇用促進協議会に対しては、アルバイト確保に向けて、受入れ体制の整備（宿舍の充実等）や働きやすい環境整備活動を支援する。</p>			
				<p>左：収穫アルバイトに説明 する三崎地区の生産者</p> <p>右：個別相談</p>

えひめ農業

標 題	新規就農者が家族経営協定を締結		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年10月31日	場所	新居浜市役所	
指導対象	家族経営協定締結農家（1戸）	連携機関	新居浜市	
普及指導内容	<p>○令和6年3月にUターン就農した農家が、このほど家族経営協定を締結した。農業経営における夫婦の役割分担の明確化を図りたいと就農前からの相談を受け、当室が協定締結を指導したもの。</p> <p>○協定書には、栽培管理と簿記記帳等の経営管理の役割分担と、家事・育児は共同で行うことを明文化するほか、週休二日制や適切な休憩時間を設けること等を盛り込み、「トライ and エラー 楽しく前向きに」を目標に、関係機関立会のもと調印した。</p>			
結果と今後	<p>○締結農家は「協定をもとに、日々の生活を充実させていきたい」と意気込みを見せた。</p> <p>○今回の締結により、新居浜市における家族経営協定数は7件となった。</p> <p>○当室では、締結農家の早期経営安定の支援とともに、更なる協定締結を推進していく。</p>			
				
調印する新規就農者		立会人と記念撮影		

標 題	麦作の振り返りと次年産に向けた栽培管理		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年11月7日	場所	JA 周桑営農管理研修センター	
指導対象	JA 周桑米麦部会員（29人）	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	<p>○令和6年産の裸麦は、生育初期には気温が平年より高く、茎数が過剰となり、黄枯れ症状の発生や、出穂期以降、降雨の多い期間が度々あったことから、湿害や赤かび病の菌が蔓延、また収穫が遅れた影響もあり、平成28年産に次ぐ低い単収となった。</p> <p>○これらの結果を踏まえ、JA 周桑麦作研修会において、播種時期、踏圧、施肥、排水対策、適期防除等の基本技術の徹底を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○出穂期から収穫期の降雨量や湿潤状況が麦の収量・品質に影響を及ぼしたことから、特に排水対策を中心とする基本技術の重要性が再認識された。</p> <p>○令和7年産については、水稻の収穫遅れや11月上旬の降雨により、麦播種前の耕起作業が遅れている。</p> <p>○当室では、発芽や生育状況を確認しながら、栽培管理指導を行う。</p>			
				
研修会の様子		指導資料		

標 題	わな猟スキルアップ第1回現地研修会（西条）を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年11月8日	場所	西条市飯岡	
指導対象	青年農業者（5人）	連携機関	農産園芸課	
普及指導内容	<p>○西条地区青年農業者連絡協議会活動の一環として、現地研修会の開催を支援した。</p> <p>○6月に実施した全体研修会で作成したくくりわなを使用し、わなの設置方法について指導。</p> <p>○また、参加者自らがわなの設置場所の選定から作動確認まで行い、効果について意見交換するとともに、専門家から餌付けや、わなの管理についてアドバイスを受けた。</p>			
結果と今後	<p>○今回のアドバイスをもとに、くくりわな及び箱わなを設置し、捕獲後は解体の研修会を行う。</p> <p>○今後も、青年農業者等の鳥獣害対策技術の向上に向けて支援していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>くくりわな設置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>箱わなの見学</p> </div> </div>				

標 題	青年農業者が県外視察研修会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年11月13日～15日	場所	福島県郡山市、双葉郡浪江町等	
指導対象	青年農業者（8人）	連携機関	西条市	
普及指導内容	<p>○農業における災害復興の足どりや経営に関する情報の収集と、地域防災に関する青年農業者の役割等について学ぶことを目的に、福島県での視察研修会開催を支援した。</p> <p>○福島県農業総合センターやJA福島さくら、道の駅なみえ等で、農業生産や災害復興について学ぶとともに、浪江町で地域の活性化に精力的に活動する若手生産者との情報交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、自らが将来の地域農業の担い手であることを改めて自覚し、今後発生が予測されている南海トラフ巨大地震への防災意識を高めることができた。</p> <p>○当室は今後も青年農業者の資質向上のための各種活動を支援する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>農業総合センター</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>若手生産者との意見交換</p> </div> </div>				

標 題	集落ぐるみで行うスクミリンゴガイ対策		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年11月17日	場所	新居浜市垣生地区	
指導対象	新居浜市垣生地区農業者（19人）	連携機関	JA えひめ未来	
普及指導内容	<p>○令和5年度の田植え後にスクミリンゴガイの食害が多く見られたことから、集落と関係機関が対策を協議し、集落ぐるみで防除作業に取り組むこととした。</p> <p>○当日は、地域の農業者が集まり、水路の泥上げ作業を実施。</p> <p>○当室は、防除指針及び対策チラシを作成し、水稻栽培者が個々で行う対策と、集落で行う対策を、時期ごとに合わせて行うことが効果的であることなどを指導した。</p>			
結果と今後	<p>○スクミリンゴガイ対策は、田植え時の薬剤施用が決め手にはなるが、個体数を減らすためには、秋冬期も含めた年間を通じての対策が必要であることが認識された。</p> <p>○新居浜市では、令和6年度から防除薬剤に対する助成金事業を創設し、駆除を後押ししている。</p> <p>○当室は、今後も地域、関係機関と協力し、一体的な取り組みの必要性を周知するとともに、防除対策指導を継続していく。</p>			
				<p>左：作業の説明 右：水路内のスクミリンゴガイ</p>

標 題	第2回市民向け野菜栽培講習会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年11月20日	場所	JA えひめ未来 新居浜経済センター	
指導対象	産直市出荷者、野菜栽培に興味がある市内在住者（32人）	連携機関	JA えひめ未来、新居浜市	
普及指導内容	<p>○産直市「四季菜広場」のリニューアルに伴い販売品目及び出荷量の増加が必要なことから、新規出荷者の確保と増収技術の習得を目的に開催。</p> <p>○当室からは、秋冬野菜3品目（タマネギ・キャベツ・ホウレンソウ）の栽培管理・病害虫防除について説明するとともに、マルチの張り方を動画で解説した。</p> <p>○JAからはタマネギ苗が参加者に提供され、新規栽培意欲を促した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは病害虫防除等、多数の質問があり、技術習得に対する意欲がうかがえた。</p> <p>○講習会後のアンケートでは、回答者の3割が「新たに栽培したい、品目・面積を増やしたい」と回答。</p> <p>○次回、第3回は、技術面に加え、収益試算方法の講座を盛り込むなどインセンティブを高める工夫を施した講習会を開催することとしており、引き続き、関係機関と連携して更なる新規出荷者の確保に努めていく。</p>			
				
野菜の栽培方法を学ぶ参加者		出荷方法の説明を受ける参加者		

標 題	新規就農者花木栽培講習会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年11月26日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	新規就農者、就農予定者他（9人）	連携機関	JA えひめ未来、JA 周桑、新居浜市、西条市	
普及指導内容	<p>○当室では、新規就農者及び就農予定者を対象に、農業経営に必要な知識や技術の習得を目的とした研修会を開催しており、現在の受講生のうち19人が、経営の補完作物として花木に関心を示していることから、花木に関する講座を定期的で開催している。</p> <p>○今回は、各品目の経営指標を示すとともに、昨年よりメラレウカ等の栽培を開始した受講生のほ場及びマルバアキグミの実証ほを視察した後、個別相談を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「講習を受けるうちにますます花木を導入したいと思うようになった」「青年等就農計画を作成中であるが、主幹作物と収穫時期が被らない品目を入れたい」など、花木の導入に意欲的な声が聞かれた。</p> <p>○今後も、新規就農者の早期経営安定の有望品目として、積極的に紹介していく。</p>			
				
実証ほ（マルバアキグミ）の視察		新規就農者のほ場（メラレウカ）視察		

標 題	郷土料理を小学生親子に伝授		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年11月2日	場所	川之江ふれあい交流センター	
指導対象	四国中央生活研究協議会（8人）	連携機関	四国中央市農業振興課	
普及指導内容	<p>○小学生親子7組19人を対象に、「食と農」に関心をもち、各家庭で地産地消を推進してもらうことを目的に、生活研究協議会が郷土料理の作り方を伝承する食文化普及講座の開催を支援した。</p> <p>○参加者は会員の指導のもと、四国中央市産のさといも、いりこを使った「いもたき」と「いりこ飯」を親子で調理、試食し、郷土の味を再確認した。</p>			
結果と今後	<p>○会員は、今回の講座を通して地元で採れたものを地元で食べることの意義や、郷土の味を伝えることができた。</p> <p>○参加者からは「家ではいりこの頭や骨を取ったり、かつお節からだしを取ったりしないので、良い経験ができた」「普段さといもを食べない子どもが、今日は『おいしい!』とよく食べた」などの意見があり、親子での調理は食育にもつながった。</p>			
				
				<p>左：会員が調理法を説明 中：親子で協力して調理 右：調理した郷土料理</p>

標 題	ブランド茶「結の霧ひめ」をはじめとする「うま茶」を県外で PR		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年11月14日～16日	場所	宮城県仙台市	
指導対象	うま茶振興協議会茶業販促グループ	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	<p>○令和6年度「儲かるモデル産地育成システム確立実証事業（県単）」を活用し、宮城県において「結の霧ひめ」をはじめとする「うま茶」の販促活動を支援した。</p> <p>○9月に東京で実施したPR活動に続き、今回は、仙台市で開催された「第2回えひめ・松山の物産と観光展」への出店に合わせて実施した。</p> <p>○消費者に向けて、緑茶の他、茶を使った菓子等の加工品の魅力を的確に伝えるため、試飲や試食を行い購買意欲や認知度を高めながら効果的にPR活動を行った。</p>			
結果と今後	<p>○消費者からは、「昔ながらの力強い風味」「愛媛で茶が生産されていることを初めて知った」等の声を聞くことができ、うま茶の魅力を県外の消費者に伝えることができた。</p> <p>○12月には広島県の百貨店の催事に出店を予定しており、当班は、引き続き県外での情報発信や認知度向上、販路拡大に向けた取組みを伴走支援することとしている。</p>			
			<p>左：うま茶販売ブース 右：結の霧ひめ等を消費者に PR</p>	

標 題	四国中央市産業祭でティースタンドによりお茶の魅力発信		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年11月16日・17日	場所	四国中央市 三島体育館前広場	
指導対象	うま茶振興協議会	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	<p>○同市産業祭で「結の霧ひめ」をはじめとする管内の茶関連商品を紹介し、認知度向上を図るため、ブース内にティースタンドを設け、直接消費者に茶の魅力等を発信した。</p> <p>○ティースタンドでは、茶の味、香り、食味とともに産地の歴史に触れながら、茶の種類に応じた淹れ方等が体験できるミニ講座を開催し、消費者に身近な茶器で茶を楽しむ工夫等を伝えた。</p>			
結果と今後	<p>○体験の参加者からは、「お茶が甘い」「香りに癒される」等の意見が聞かれ、茶の種類ごとに飲み比べ、ゆったりと2煎、3煎目と変わりゆく味を楽しんでいた。</p> <p>○各製茶場がティースタンドの設置など協力して販売に取り組んだことから、集客数や売上の向上につながった。</p> <p>○当班は、今後とも「うま茶」の魅力を発信しながら、認知度向上と販売促進に向けた活動を支援していく。</p>			
			<p>左：ブース内にティースタンド設置 右：「結の霧ひめ」でうま茶の魅力発信</p>	

標 題	やまのいも「やまじ丸」を消費者に PR		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年11月16日・17日	場所	四国中央市 三島体育館前広場	
指導対象	やまじ丸生産振興協議会	連携機関	JA うま	
普及指導内容	○同市特産品のやまのいも「やまじ丸」の知名度向上を図るため、同市産業祭において来場客に、「やまじ丸」を用いた団子汁の試食によるPR活動を行った。 ○また、家庭での消費拡大に繋げようと、「やまじ丸」を使った料理のレシピ集の配布も行った。			
結果と今後	○試食（2日間で計400食）は盛況で、「とてもおいしかった」「どうやって固めているのか」「どこで買えるのか」等の意見や質問があり、興味、関心が示された。 ○「やまじ丸」の知名度はまだまだ低いため、今後も、市内学校給食での利用定着や松山市の宿泊施設等での利用を推進するなど、知名度向上に努める。 ○また、関係機関が連携し、市単事業の活用等による、新規栽培及び栽培面積拡大を啓発し、生産量の拡大をめざす。			



団子汁を試食する来場客



職員が手際よく調理



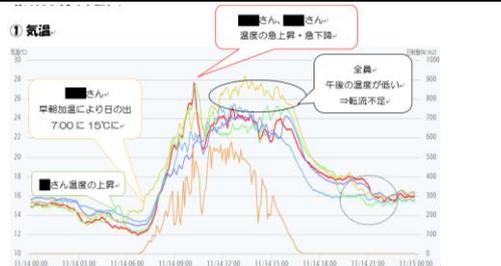
左：みそ汁風味の団子汁

※「やまじ丸」：四国中央市で生産された県育成品種「やまじ王」をJAうまが商標登録、「愛」あるブランド製品の認定を受けている。

標 題	いちご栽培環境モニタリングデータ活用実証プロジェクト第1回勉強会を開催	機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年11月18日	場所	西条市玉津
指導対象	いちご生産者8人 (実証生産者5人、農業指導士等3人)	連携機関	JA(周桑、えひめ未来) 農産園芸課、農林水産研究所
普及指導内容	○実証生産者等を対象に、栽培データ等を活用して栽培管理の最適化を図る環境制御技術の現地勉強会を開催した。 ○モニタリングしたハウス内の温度やCO ₂ 濃度等のデータから適正に管理されているかを確認し、改善のアドバイスをするとともに、日射量が減少していく冬に向けての栽培管理の注意点を指導した。 ○当室からの指導の後、先駆的に環境制御技術に取り組んでいる農業指導士から、日射量が多い日はCO ₂ 濃度を450ppmに維持する、昼夜の温度差は8～10℃を維持する等の具体的な栽培管理事例を紹介した。		
結果と今後	○実証生産者からは、昼夜の温度差が小さいことが分かったため、温度差をつけるために正午以降25℃以上の高温をキープする温度管理を行いたいと話していた。 ○勉強会は2月末まで2週間に1回実施予定。		



意見が飛び交う勉強会



栽培環境モニタリングデータを分析



生育調査は農家自身が実施

標 題	集落営農組織がいちご観光農園を開設		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年11月25、27日	場所	今治市中寺	
指導対象	農事組合法人サポート中寺	連携機関	JA おちいまばり、今治市	
普及指導内容	<p>○集落営農組織が新たに観光農園「しまなみいちご園」（商標申請済み）を開設するため、PR や運営の方法、受け入れ態勢の整備について関係者で協議した。</p> <p>○協議では、開花状況から品種ごとに収穫時期を予想。開園日や入場者数など運営方法を整理したほか、集落営農組織と JA 直売所「さいさいきて屋」が連携し、相乗効果による地域の活性化に取り組む。</p>			
結果と今後	<p>○12月10日から予約サイトを開設、開園は12月24日の見込みで、JA直売所で受付して隣接のハウスで「紅い雫」など多品種のいちご狩りを楽しめる。</p> <p>○現在、いちごは新設したハウスで順調に生育しており、集落営農組織の新たな挑戦をサポートし、経営発展につなげていく。</p>			
  				
観光農園ロゴも完成		新設したいちごハウス		観光農園の運営を協議

標 題	冬春トマトで市場ニーズに対応した品種を検討		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年11月7、13、26日	場所	今治市朝倉下	
指導対象	JA おちいまばりトマト部会（6人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○市場ニーズに対応するため、冬春トマト（長期促成栽培）について、正品率が高く黄化葉巻病の被害が少ない品種を検討する実証ほを設置した。</p> <p>○当室は、比較する3品種の生育状況や樹体栄養状態を定期的に確認し、リアルタイム栄養診断を実施するとともに、黄化葉巻病の発生状況を確認する。</p>			
結果と今後	<p>○これまでの生育では、既存品種「桃太郎ホープ（タキイ種苗）」が最も早く、11月26日に収穫を開始。来春6月まで収穫が続く。</p> <p>○また、栽培が長期になるため、媒介するコナジラミ類の天敵タバコカスミカメの実証に取り組んでおり、総合的な対策で黄化葉巻病の発生を防ぐ。</p>			
  				
部会で品種について検討		11月下旬の生育状況		硝酸イオンメータで硝酸を測定

標 題	農福連携に新たなさといも生産者が参加		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年11月11、12日	場所	今治市日高、玉川町	
指導対象	(NPO) アクティブマインド(9人)、さといも生産者(2人)	連携機関		
普及指導内容	<p>○農福連携活動に取り組む就労支援施設「アクティブマインド」に、新たな提携先としてさといも等を栽培する「PINZA FARM」(八木良太代表)を紹介したところ、さといも収穫作業の体験会を開催することになった。</p> <p>○「PINZA FARM」は、昨年度の農福連携の農作業体験マッチング会にも参加するなど従来から農福連携に関心を示しており、本年度の栽培規模の拡大により、新たな労働力を確保することが経営上の課題となっていた。</p>			
結果と今後	<p>○当室は、事前に同施設の支援員を対象に収穫手順を確認するとともに、作業当日は、利用者が安全に作業できるよう支援した。</p> <p>○同施設の利用者は、楽しく安全に作業を進めることができたことから、両者は作業契約を正式に締結。</p> <p>○19日、25日も収穫作業を行っており、当室は引き続き両者の活動を支援する。</p>			
				
支援員と作業の事前打合(11日)		施設利用者の体験作業		契約締結後の収穫(25日)

標 題	(有) こんぱらが「豊かなむらづくり全国表彰」で農林水産大臣賞を受賞		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年11月28日	場所	岡山県岡山市(ピュアリティまきび)	
指導対象	(有) こんぱら	連携機関	今治市・JAおちいまばり	
普及指導内容	<p>○(有) こんぱらは、「集落内に耕作放棄地を出したくない」との思いから、平成16年に農業法人を設立。農地の集積と有効活用による地域農業の維持発展に取り組んでおり、当室ではさといも等の収益品目の導入や担い手の確保・育成を支援してきた。</p> <p>○6月に開催された審査会では、地元造船会社と協力した地産地消の取組み、混住化が進む集落で地域住民と共存しながら営農活動を継続・発展させ、新たな担い手を確保した点が評価された。</p>			
結果と今後	<p>○審査会の結果、これまでの活動が評価され農林水産大臣賞が授与された。</p> <p>○表彰式後の意見交換では、「都市型集落営農組織のモデルとして、地域住民との調和を大切に、新たな事業にも挑戦していきたい」と語った。</p>			
				
表彰状を授与される		活動の中心を担う役員たち		意見交換で組織の未来を語る

標 題	新規就農者の仲間づくりに向け交流会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年11月7日	場所	イオンモール今治新都市イオンホール	
指導対象	新規就農者(12人)、就農予定者(11人)、農業指導士(6人)	連携機関	今治市、上島町、JAおちいまばり、JA今治立花、農業共済	
普及指導内容	<p>○就農5年未満の新規就農者と研修中の就農候補者が集い、地域への定着と早期の経営確立に向け、相談しやすい仲間づくりを目的に交流会を開催した。</p> <p>○新規就農者から、就農時の苦労話や助け合える仲間づくりの大切さなどの取組みを紹介、就農予定者からは、就農に向けての夢や目標を報告した。</p> <p>○グループワークでは、栽培品目ごとに農業指導士をアドバイザーに、抱えている課題の解決や情報交換を目的に意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○新規就農者からは、「地域や栽培品目の異なる農業者と悩みや考え方を共有でき、貴重な時間だった」「農業指導士のアドバイスは就農への励みになった」と話した。</p> <p>○今後も、同じ地域内でも交流する機会が少ない新規就農者同士での情報交換の場として、継続して開催していくこととしている。</p>			



新規就農者が経営事例を報告



農業指導士からエール



グループワークで意見交換

標 題	えひめ地域鳥獣管理専門員と連携し鳥獣害対策を実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年11月13・25・27日	場所	今治市大西町山之内集落	
指導対象	かんきつ農家(6人)	連携機関	JAおちいまばり	
普及指導内容	<p>○収穫を間近に控えた柑橘類への鳥獣被害を防ぐため、えひめ地域鳥獣管理専門員(以下、管理専門員)と連携し、現地を点検して被害状況を把握した。</p> <p>○被害の多くは、イノシシとハクビシンによる果実への食害と樹体への枝折りが見られ、既存のワイヤーメッシュ柵の補修や補強、新たな電気柵の設置など防護対策を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○苗木園地には、簡易に設置できる電気柵「スマートフェンス」やセンサーカメラを設置し、対策の効果を検証する。</p> <p>○今後も、管理専門員間の連携を密にし、情報共有と対策を強化していく。</p>			



柑橘へのイノシシ被害



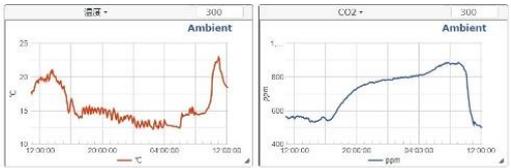
管理専門員と現地確認し対策を検討



スマートフェンスを設置

標 題	上浦再編復旧園の新たな土壌流亡対策、土づくり実証を開始		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年11月5日	場所	今治市上浦町盛	
指導対象	JA おちいまばり	連携機関	JA おちいまばり、今治市 今治支局農村整備課	
普及指導内容	<p>○豪雨災害からの復旧が進む盛地区で、斜度が急な園地（傾斜10° 約2ha）における承水路の設置など、土木的な対策と連動した新たな土壌流亡対策と、土づくりの実証を開始した。</p> <p>○敷設が完了した植生シート（被覆率25%）の間に、柑橘苗木の植栽列の幅約1mを耕起し、冬期に生育する緑肥作物（エン麦）の栽培を指導した。</p> <p>○ライン状に配置した草生面の割合を約50%程度に高めて、降雨時の表面流去水の発生を軽減し、土壌流亡の抑制と効率的な土づくりの効果を検証する。</p>			
結果と今後	<p>○植生シートは11月上旬から、エン麦は播種8日後から順次発芽し、順調に生育。</p> <p>○当室では引き続き、関係機関と連携し、緑肥作物の栽培による土壌流亡対策と土づくり等を指導し、復旧園地の営農再開を支援する。</p>			
 <p>植生シート、苗木植栽列等の配置</p>		 <p>耕起、エン麦播種の様子</p>		<p>※植生シート 土木工事で用いる土壌流亡対策資材。草の種子を挟み込んだ生分解性のシート（幅1m）。</p>

標 題	島内での柑橘優良事例を学ぶ		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年11月14日（木）	場所	上島町岩城	
指導対象	岩城果樹研究会（19人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○岩城果樹研究会（会員32人）を対象に、島内を巡回し柑橘優良事例を学ぶ研修会を開催した。</p> <p>○早期成園化、省力防除機械導入、ロボット草刈機導入園地の視察を行い、農業者が考えている経営上の課題や省力機械導入の意向などについて意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○島内での柑橘栽培の優良事例や省力化機械の導入園地の視察を通じて、栽培技術や省力化技術の現状等について理解が促進された。</p> <p>○今後も、地域内での優良事例を紹介することで、労働力補完技術や機械導入等に興味を持ってもらい、補助事業の活用や経営改善に生かしていきたい。</p>			
 <p>機械導入の効果について意見交換</p>		 <p>ロボット草刈り機の実演視察</p>		

標 題	CO ₂ センサーでハウス内をモニタリング		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年11月20日	場所	今治市朝倉地区	
指導対象	トマト生産者（1人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○トマト生産者がハウス内の加温及びCO ₂ 施用を開始したことに併せて、「データ駆動型施設野菜栽培実証事業」で当室が事前に設置していた自作CO ₂ センサーの校正プログラムを修正および最適化した。			
結果と今後	○ハウスに外気を取り込む夏季の開放時に適した自動校正から冬季の閉鎖時に適した手動校正とすることで、栽培管理に活用できる正確なCO ₂ データの取得とセンサーの活用の実証を継続できる環境を整えた。 ○このことから、引き続き、センサーから得られたデータを基に栽培管理方法を指導するとともに、安価な自作センサーの有効性を検証する。			
  				
<p>安価な自作センサー 校正をプログラミングで修正 データに基づいてハウスを管理</p>				

標 題	「しまなみみんなのディッシュ」会員と農産加工品を県庁ロビーでPR		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年11月13日～18日	場所	県庁第1別館玄関ロビー	
指導対象	しまなみみんなのディッシュ	連携機関		
普及指導内容	○「しまなみみんなのディッシュ」産品を県庁職員と来庁者に広く知っていただくため、県庁第一別館玄関ロビーで、会員のパネル紹介と農産加工品サンプルの展示を行った。 ○なお、パネル紹介および展示はJR松山駅内店舗で販売している8会員、21品とした。			
結果と今後	○職員や来庁者からは「どこで買えるのか」「この機会に購入したい」「県内でこんな農産加工品を作っているのを知らなかった」など多くの質問やコメントがあり、より身近により深く知っていただくとともに、会員のやりがいにもつながる場となった。 ○これを機会に、「しまなみみんなのディッシュ」産品のJR松山駅内店舗を含めた販売促進と常設店舗の販路開拓につなげていく。			
  				
<p>パネル紹介と展示全景 農産加工品サンプルの展示</p>				

標 題	イタリア野菜栽培状況調査とイベント協議		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年11月21日	場所	イタリア野菜生産者ほ場	
指導対象	イタリア野菜生産者（2名）	連携機関	JA おちいまばり、トキタ種苗（株）	
普及指導内容	<p>○イタリア野菜類の種子販売大手で全国の栽培技術や情報を有するトキタ種苗（株）の担当者を招いて、管内の2ほ場を巡回し、生育状況と病害虫被害の調査を行うとともに、今後の栽培管理指導、トキタ担当者からの他産地の状況報告を行った。</p> <p>○あわせて、当室が企画している今後のイベントや栽培説明会について、JA、トキタと協議を行った。</p>			
結果と今後	<p>○8月の猛暑による発芽不良や育苗の遅れは見られたが、現在の生育は良好で特段の病害虫被害もない。今後も定期的に状況調査を行い、適期指導に努める。</p> <p>○12月に開催予定の「試食・販売イベント」や飲食店2店でのフェアについて、トキタからのSNS情報発信の協力も得て、県内外の方へ広くPRする。</p> <p>○12月下旬予定の「バターナッツ」栽培説明会の開催について、JA、トキタと連携することで、より情報量が多く、出口を明確化する会とし、新規栽培者の獲得を図る。</p>			
				<p>左：イタリア野菜圃場</p> <p>右：調査状況</p>

標 題	農業法人と福祉施設と農作業のマッチング		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年11月6日	場所	松山市粟井	
指導対象	㈱蓮果園（3人）、㈱シェア(就労継続支援B型事業所)、利用者（8人）、職員（3人）	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○障がい者の農業分野での活躍を目指す農福連携の推進のため、福祉施設とかんきつ生産に取り組む農業法人とのマッチングを支援。</p> <p>○「せとか」の果実の退色防止を目的に、被覆資材を被せる作業を実施し、作業上の注意点やポイントを指導した。</p>			
結果と今後	<p>○利用者からは、「単純な作業のため、自分の仕事に適している」「進捗状況が目に見えて分かるので楽しい」との声があった。</p> <p>○農業法人は、果実への被覆作業が問題なく実施できたことから、雇用契約を締結することとしている。</p> <p>○今後も、生産者を対象としたセミナーの開催や福祉施設のジョブコーチ研修等を実施し、農福連携を推進する。</p>			
				<p>左：果実への被覆作業のポイントを説明</p> <p>右：施設利用者による被覆作業</p>

標 題	「愛媛お手伝いプロジェクト」参加者への収穫作業研修会を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年11月30日	場所	松山市堀江町（JA えひめ中央研修ほ場）	
指導対象	ボランティア参加希望者（8人）	連携機関	JA えひめ中央、(株)VOCE	
普及指導内容	<p>○「愛媛お手伝いプロジェクト」において、新たにボランティアに登録した社会人等を対象に、かんきつの収穫方法についての研修会を実施。</p> <p>○研修会では、かんきつの収穫方法、収穫袋やコンテナの扱い方について説明し、「はれひめ」の収穫作業を体験した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者の中には初めて収穫作業を経験する人もおり、「1日収穫作業ができるか心配だが、頑張りたい」とボランティアを楽しみにしていた。</p> <p>○当室では、同プロジェクトの円滑な実施のため、企業や大学、県職員等へのボランティアの参加を働きかけ、かんきつ産地の労働力確保を支援する。</p>			
 		<p>左：収穫時の注意点を指導 右：参加者が収穫を体験</p>		

標 題	青年農業者等がわな猟スキルの向上を図る		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年11月8日	場所	松山市小野地区	
指導対象	青年農業者等（6人）	連携機関	農産園芸課 (株)野生鳥獣対策連携センター	
普及指導内容	<p>○獣害による農作物被害軽減のため「青年農業者等わな猟スキルアップ実践事業」を活用し、青年農業者グループの若手狩猟者へわな猟での捕獲技術習得を支援した。</p> <p>○イノシシ被害が確認されている農地周辺で、地形図や航空写真を活用してイノシシの移動経路の予測を立て、現場で痕跡を確認し、行動習性等について理解を深めた。</p> <p>○くくりわなで捕獲する場合は、利用頻度が高い獣道のうち、斜面で狭い獣道や、石や枝等により踏む位置を絞られる地点に設置することが捕獲効率を高めるポイントであることを指導し、実際にくくりわなの設置実習を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者はイノシシの行動習性等を理解するとともに、くくりわなの設置ポイントや設置時の注意点について理解を深め、捕獲技術が向上した。</p> <p>○今後も、当グループ員の捕獲技術向上を支援し、地域の鳥獣害対策の担い手として育成する。</p>			
 		<p>左：地形図等を活用したイノシシの行動分析 右：くくりわな設置位置の選定</p>		

標 題	「七折小梅」の安定生産対策を目指したせん定講習会を開催		機関名	中予局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和6年11月18日	場所	砥部町七折地区	
指導対象	農事組合法人ななおれ梅組合員(17人)	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○来年度、「七折小梅」の着果過多が予想されることから、樹勢維持による安定生産のための、整枝せん定方法等を講習。</p> <p>○改植された優良系統への苗木において、収穫しやすく作業効率の良い樹形づくりの整枝方法についても指導。</p> <p>○併せて、同法人で認定されたエコファーマーの取組みを適切に実施するため、農薬の選定や使用方法、防除時期について検討し、環境に配慮した生産対策を推進した。</p>			
結果と今後	<p>○安定した生産を確保するため、強めのせん定により結果母枝数を制限するなど、整枝・せん定技術を理解させることができた。</p> <p>○苗木からの整枝技術を習得させることで、作業性の高い樹づくりが可能となり、収穫作業の省力化が期待できる。</p>			
 		<p>左：安定生産に向けたせん定講習 右：エコファーマーに対応した防除指針の検討</p>		

標 題	青年農業者とひめカレ生が農作業を通じて交流		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和6年11月6日	場所	砥部町中央公民館、かんきつほ場	
指導対象	伊予地区青年農業者協議会員(9人) えひめ農業未来カレッジ学生(12人)	連携機関	砥部町	
普及指導内容	<p>○青年農業者協議会活動の魅力発信と新規就農希望者掘り起こしを目的に、えひめ農業未来カレッジの学生を対象に交流会を開催。</p> <p>○参加した学生は4か所のほ場に分かれ、青年農業者と「せとか」の被覆資材のサンテ掛けや「不知火」の袋がけ作業等を実施するとともに、学生からの就農への夢や不安について青年農業者が丁寧にアドバイスした。</p>			
結果と今後	<p>○学生からは「将来の就農に向けたイメージができた」、会員からは「自分たちよりも若い世代と話すことができ、良い刺激となった」との声があり有意義な交流会となった。</p> <p>○今後も青年農業者協議会の活動が、就農希望者の掘り起こしにつながる魅力的なものとなるよう支援する。</p>			
 		<p>左：ほ場で作業する青年農業者とひめカレ生 右：就農の夢や不安を意見交換</p>		

標 題	トマトの高温対策等について先進地に学ぶ		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年11月28日	場所	岡山県高梁市、真庭市	
指導対象	—	連携機関	久万高原町、JA松山市、県農業共済組合	
普及指導内容	<p>○久万高原町は県内有数の夏秋トマトの産地であるが、近年の高温化の影響により裂果、軟化等の品質の低下や、着果数の減少による収量の低下を招いている。</p> <p>○久万高原地区農業改良普及事業推進協議会(事務局：当指導班)は、この問題を解決するため、先進地である岡山県の夏秋トマトの産地で高温化対策の状況を研修した。</p>			
結果と今後	<p>○JA 晴れの国岡山では、裂果を起こしにくい新品種「桃太郎みなみ」の栽培や選果・販売状況を学び、久万高原地区への新品種の導入へ向けた知見を深めた。</p> <p>○岡山県農業研究所高冷地研究室では、裂果を防ぐ品種や台木の種類、施肥の方法、整枝の仕立て方等を研修し、栽培方法の改善に活かすこととした。</p> <p>○今後も引き続き関係機関との連携を図り、高温対策に対応したトマト産地の活性化を推進する。</p>			
				<p>左：選果場での選果状況を調査</p> <p>右：トマトの裂果対策の調査</p>

標 題	農福連携の推進に向けた施設支援員の技術力向上		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年11月7日	場所	久万高原町畑野川	
指導対象	パステル工房支援員（2人）、利用者（2人）	連携機関	JA松山市他	
普及指導内容	<p>○障がい者の農業分野での活躍や福祉分野の農業参入など農福連携を推進するため、支援員の技術力向上を目指した研修会を開催。</p> <p>○研修会では、さといもの調製作業（芋の分離、根切り、分別）の方法及び注意点について指導し、支援員の知識及び技術の向上を図った。</p>			
結果と今後	<p>○50分間の作業で製品芋53kg、キズ芋4.3kg、規格外4.7kgを処理でき、農家も作業内容に満足していた。</p> <p>○作業中に2種類の手袋（背抜き手袋、ナイロン製手袋）による作業の効率化について検証し、ナイロン製手袋の方が、指先に土が入らない、滑りにくいなど優位性が確認できた。</p> <p>○支援員からは、「分離、根切り、分別等の全作業を利用者が1人で行うことは難しい」との意見があり、今後は、利用者が同じ作業をできるように改善することとした。</p>			
				<p>左：さといもの調製作業のポイントを農家が説明</p> <p>右：支援員、利用者による調製作業</p>

標 題	紅プリンセスのす上がり対策実証経過		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年11月21日	場所	松山市中島	
指導対象	紅プリンセス実証ほ設置農家(2人)	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○管内では県予算「紅プリンセス生産支援事業」で、高品質果実安定生産を目指した技術実証に取り組んでいる。</p> <p>○紅プリンセスは樹勢が強く、強勢な主枝等と果実との養分競合が、す上がりの発生要因と推察されることから、5月に主枝の誘引による養分競合軽減を図った。</p> <p>○調査樹から着果部位別に果実を採取し、切開調査により、誘引処理によるす上がり果発生への影響を調査した。</p>			
結果と今後	<p>○誘引区では、対照区と比較してす上がり果の発生率が低かった(11.1%減)。</p> <p>○主枝3本のうち1本の誘引区では、差は見られなかった。</p> <p>○今後、収穫時に果実数を増やして再調査を行い、誘引の効果を検証する。</p>			
				<p>左：誘引区 す上がり発生率 5.5%</p> <p>右：対照区 す上がり発生率 16.6%</p>

標 題	秋播きパクチーの生育が順調		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年11月15日	場所	松山市各地、東温市各地	
指導対象	パクチー生産者(6人)	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○管内では地方局予算「パクチー周年安定生産体制確立事業」で、パクチーの周年安定生産を目指している。</p> <p>○秋播き栽培については実証ほを6か所設置し、標高等の栽培条件に応じた技術を指導。</p> <p>○秋播き栽培は8月中旬から9月末までに播種を行い、10月～12月が収穫期となる。</p>			
結果と今後	<p>○9月上旬までの播種は、高温のため発芽が悪く欠株が多くなり、10月の出荷量は減少した(昨年比33%)。</p> <p>○9月中～下旬の播種は、発芽、生育ともに良好で、11月中旬以降、出荷量が増加しており、12月中旬まで出荷が続く見込み。</p> <p>○10/1～11/15の市場単価は2,069円/kg(昨年比156%)となった。</p> <p>○今後も冬季作型のきめ細かな指導により、周年安定生産の技術確立を目指す。</p>			
				<p>左：収穫前のパクチー (松山市)</p> <p>右：出荷調製したパクチー (東温市)</p>

標 題	水稲品種「にじのきらめき」の作付けが拡大		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年11月8日	場所	JA えひめ南本所	
指導対象	北宇和地区農業技術者連絡協議会作物部会	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○令和7年度の水稲栽培指針検討会が開催され、当室が今年の肥料や農薬の実用化試験結果等を説明した後、栽培方針について協議を行った。</p> <p>○特に「にじのきらめき」については、管内で、令和3年から試験的に導入し、令和6年に34戸(24ha)に広がり、さらに令和7年の栽培希望が約180haに達しており、これまでの栽培状況や生産実績を踏まえ、資材の種類や施用量等について意見を出し合った。</p>			
結果と今後	<p>○今年は「にじのきらめき」を含めた水稲品種全般で、高温の影響で品質が悪かったことから、指針には、土づくりの必要性やケイ酸加里の施用を強調することとした。</p> <p>○急速に面積拡大する「にじのきらめき」については、地域に適した栽培技術を明らかにして指針に反映し、地域での定着を目指す。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>急拡大の「にじのきらめき」 (宇和島市三間町)</p> </div> </div>				

標 題	根域制限マルチ栽培が初収穫を迎える		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年11月25日	場所	宇和島市吉田町玉津	
指導対象	玉津柑橘倶楽部(2人)	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○当管内では、復興対策の一環で、緩傾斜地でも高品質果実の生産が可能な「根域制限高畝マルチ栽培」のモデル栽培に取り組んでいる。</p> <p>○取組主体の玉津柑橘倶楽部は、初収穫にあわせ、関係機関と合同で収穫調査を行うとともに、当室が改良した電動一輪車による運搬作業を体感した。</p>			
結果と今後	<p>○同倶楽部員からは、「果実がきれいで、収穫作業が楽だった」「作業道が列ごとにあり、電動一輪車での運搬作業が容易だった」との意見が出た。</p> <p>○今後、関係機関とともに品質向上効果や労働生産性向上の測定、せん定指導など同倶楽部の支援を継続していく。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：南柑 20 号の収穫</p> <p>右：改良電動一輪車による運搬作業の軽労働化</p> </div> </div>				

標 題	今秋の異常高温に対応したいちご生産者支援		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年10月23日～11月11日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	いちご生産者（3人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○いちごの花芽分化の促進は「低温」「低窒素」等が条件となるが、異常気象により今年の近永（アメダス）の気温は平年よりも9月で2.8℃、10月で3℃高く、頂花房（一番目の花房）で昨年より5～10日程度花芽分化が遅れた。</p> <p>○また、定植後に分化する第一次腋花房（二番目の花房）の分化を安定させるため、当班は、ハウス内の気温上昇を避け、窒素肥効も抑え気味にコントロールするよう指導するとともに、生産者からの要望に基づき「紅い雫」「紅ほっぺ」「レッドパール」の第一次腋花房について、花芽検鏡を5回実施した。</p>			
結果と今後	<p>○「紅い雫」は比較的早い段階で分化期に達し、保温や追肥開始を助言し、「紅ほっぺ」「レッドパール」は分化がばらつき遅れたため、11月中旬の電照開始期にやむなく保温等を開始するよう指導した。</p> <p>○今後は、定期的な巡回で株の生育や出蕾開花の状況を確認しながら、異常気象下でも安定生産できるよう丁寧に支援する。</p>			
		<p>左：花芽検鏡の様子 右：検鏡用のいちご苗</p>		

標 題	鬼北町で家族経営協定を締結		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年11月21日	場所	鬼北町中央公民館	
指導対象	家族経営協定締結農家（1戸）	連携機関	鬼北町	
普及指導内容	<p>○農業経営の役割分担や就業条件などの取り決めを通じて経営の合理化を図るため、家族経営協定書の作成支援等を行い、鬼北町の農家が夫婦間での協定を締結した。</p> <p>○締結式では、農業委員長等の立会いのもと調印を行い、「後進の目標となり得る専業農家を目指したい」との決意表明があった。</p> <p>○当班からは目標とする農業経営の実現に向け、励ましのことばを贈った。</p>			
結果と今後	<p>○今回の締結により鬼北町の締結農家数は16戸となった。</p> <p>○当班では、やりがいを持って農業に取り組む、地域の担い手として活躍できるよう支援するとともに、締結農家の拡大を目指す。</p>			
		<p>農業委員長から協定書を贈呈</p>		

標 題	小学生に「愛南ゴールド」の魅力を伝承		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年11月7日	場所	愛南町立平城小学校	
指導対象	愛南生活研究協議会員（5人）	連携機関	愛南町立平城小学校	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○食農教育活動に取り組む愛南生活研究協議会が、「食文化普及講座」を開催し、調理実習体験を通じた地域食材への関心と消費拡大を促した。 ○「愛南ゴールド」を利用した飲むゼリーの調理実習を行うとともに、当班が愛南町の農業概況についてクイズ形式の講座を実施した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○児童と保護者が飲むゼリーを試飲し、「愛南ゴールド」特有の甘味と酸味が好評で、熱心な質疑応答が交わされ、地域食材への関心と地域農業への知識が深められた。 ○今後は、かんきつに限らずブロッコリーなど地域食材を活用した消費者交流や食農教育活動を支援する。 			
				<p>左：調理実習 右：クイズ形式で実施した講座</p>

標 題	南宇和高校が高校生農業アクション大賞で準大賞に選ばれる		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年11月11日	場所	東京都内	
指導対象	愛媛県立南宇和高等学校	連携機関	愛南町、JA えひめ南	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○県立南宇和高等学校は「全国高校生農業アクション大賞（主催：全国農業協同組合中央会、毎日新聞社）」の準大賞に選ばれ、11月11日に東京都内で表彰された。 ○受賞した取組みは、高樹高化及び密植化が進みやすい河内晩柑について、低樹高化及び縮間伐による作業の効率化や軽労働化の効果を実証研究したもので、当班が継続的に助言してきた。 			
結果と今後	○当班では引き続き関係機関と連携し、南宇和高校の取組みを支援するとともに、生徒に農業の魅力を発信する。			

【農業アクション大賞】
農業高校などの生徒たちがグループで取り組む、農や食に関するプロジェクトや課題研究を募集し、毎年度15グループを認定。3年間の活動結果をもとに優れた実績を残したグループには、3年目に「大賞」や「準大賞」を贈る。
南宇和高校は令和4年に15グループに認定されていた。

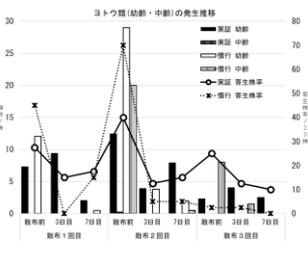


河内晩柑の夏秋梢処理指導



表彰式会場にて
(南宇和高校提供)

標 題	集落水稲栽培の生産性向上と有機栽培の拡大に向けて		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年11月14日	場所	愛南庁舎会議室	
指導対象	山出集落 水稲有機栽培志向生産者（6人）	連携 機関		
普及指導 内容	<p>○山出集落で無農薬野菜栽培に取り組む新規就農者は、当班指導のもと本年度から水稲の減農薬・無化学肥料栽培に取り組み、生産した減農薬米は愛南町の協力を得て、学校給食へ供給した。</p> <p>○同生産者からの「集落内水稲生産者と協力して、耕作放棄地の解消に加え、施肥や栽培管理のほか緑肥作物を使用した新たな栽培方法を模索したい」という要望に応え、当班が集落内水稲生産者を対象に、栽培技術の基礎と特別栽培における病害虫防除等についての研修会を実施した。</p>			
結果と 今後	<p>○中山間地での水稲栽培は、矮小な水田による低生産性や高齢化により厳しい状況が続いているが、参加者からは「子供たちに愛南町産のコメや野菜を食べてもらいたい」「地域の暮らしと農地を守り、つなげたい」という前向きな意見が聞かれた。</p> <p>○当班では、地区内で有機栽培や食育に興味を持つ農家を巻き込みながら、特別栽培米の生産拡大はもとより、生産者組織の法人化や周年での学校給食への供給を目指す。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <div style="text-align: center;">  <p>小学校の給食に「愛南町山出産コシヒカリ」が提供されました。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>左：水稲有機栽培基本技術研修 右：学校給食用に初めて提供した減農薬栽培の「山出産コシヒカリ」</p> </div> </div>				

標 題	ブロッコリーにおけるドローン防除実証の進捗状況を生産者に情報共有		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年11月19日	場所	JA えひめ南南宇和宮農センター	
指導対象	ブロッコリー生産者（13人）	連携 機関	JA えひめ南	
普及指導 内容	<p>○水田の有効利用品目として産地振興に取り組んでいるブロッコリーの省力化技術の確立に向け、ドローン防除実証の進捗状況を共有した。</p> <p>○当班は、ドローン防除と慣行防除（手散布）の薬剤体系による病害虫の発生や茎葉の被害状況を比較検証しており、現状、ドローン防除は慣行と同程度の防除効果を確認していることを報告。</p> <p>○また、現場ニーズに即した普及性を検討するため、アンケート調査を実施した。</p>			
結果と 今後	<p>○比較的経営規模の大きい生産者は「さらに有効性が確認できれば利用を検討したい」との意見が多い一方、「高齢で面積も小さいため利用するかわからない」等の意見も見られた。</p> <p>○今後、実証ほの収量・品質を調査し、地域業者へのドローン防除作業委託を視野に入れつつ、生産者のニーズに即した省力防除体系の確立に向け、検証を進めていく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <p>ドローンによる薬剤散布</p>  <p>進捗状況を共有</p>  <p>病害虫の発生状況調査</p> </div>				

標 題	「清見」の果皮障害軽減に向け実証試験を開始		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和6年11月12日	場所	伊方町三崎地区	
指導対象	管内の「清見」生産者	連携機関	JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○近年の温暖化の影響により、「清見」等の晩柑類では果皮に亀裂が入るクラッキングや水腐れ等の果皮障害の発生が問題となっている。</p> <p>○「不知火」「ぽんかん」等では、水腐れの軽減に効果のある薬剤として植物成長調整剤の「ジベレリン」が登録されているが、「清見」には登録がないことから、当室では、3年前からみかん研究所やJAにしうわと連携し、試験を実施する等、登録に向けて取り組んできた。</p> <p>○その結果、本年7月に登録が完了したことから、管内における適切な散布時期や濃度を検討するため、実用化に向けた現地実証試験を実施することとした。</p>			
結果と今後	<p>○適切な散布時期（11月、12月）や濃度（1.0ppm、0.5ppm）等を検討するため、それぞれを組み合わせた試験区を設置した。</p> <p>○今後、試験区毎に果皮障害の発生程度等を調査し、実用化に向けた検証を行う。</p>			
				<p>左：ジベレリンの散布</p> <p>右：散布直後の果実</p>

標 題	ふるさとの味伝承&季節のスイーツ作り講習会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年11月26日	場所	内子東自治センター	
指導対象	大洲喜多地区生活研究会員（18人）	連携機関	大洲市	
普及指導内容	<p>○同研究会は、家庭の味や各地域の料理を伝承するため「ふるさとの味伝承講習会」を開催するとともに、季節の果物を使用した「季節のスイーツ作り講習会」も開催。</p> <p>○各グループで1～2品料理を持ち寄り、レシピに沿ってポイントなどを説明し、スイーツ作りでは栗を使用したパウンドケーキを作った。</p>			
結果と今後	<p>○6グループの会員が参加し、それぞれが家庭料理や地域の農産物を使用した料理を持ち寄って約10品が並んだ。</p> <p>○会員からは「普段食べることのない家庭の味やレシピを知ることができて大変有意義な研修会だった」「スイーツ作りのコツを学ぶことができた」といった声が聞かれた。</p> <p>○今後も郷土料理の伝承や地産地消を目指した同協議会の活動を支援する。</p>			
				<p>左：講習会の様子</p> <p>右：持ち寄った料理</p>

標 題	農業展でアシストスーツの着用体験		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和6年11月16日	場所	JAひがしうわ城川営農センター	
指導対象	西予市城川町内農業者等	連携機関	西予市	
普及指導内容	<p>○農作業の労力軽減や省力化に向け、奥伊予ふるさと祭農業展でアシストスーツの着用体験や省力化機械の展示・実演を行った。</p> <p>○動力タイプを含む複数のアシストスーツの展示を前に、希望者は実際に着用し、サポート効果を体感した。</p> <p>○また、メーカーの協力を得て、比較的小型で省力化が期待される充電式のせん定バサミ、草刈機、運搬車等について、実演を交え紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「アシストスーツにより農作業中の腰、背中をサポートしたい」「省力化のため比較的安価な機械から購入したい」との声が聞かれるなど、必要性を認識する機会となった。</p> <p>○今後も、労力軽減や省力化に向け、展示・実演会等において体験の場を設け、導入・普及を後押しする。</p>			
				<p>左：アシストスーツの着用体験 右：省力化機械の展示・実演</p>

標 題	西予市でふるさとの味を伝えるフェスタを開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和6年11月6日	場所	西予市宇和地域づくり活動センター	
指導対象	西予生活研究協議会員、学校給食関係者、直売所関係等（計54人）	連携機関	西予市	
普及指導内容	<p>○地域の郷土料理の伝承や地産地消の推進を目的とした「グリーンフェスタ2024」を食農教育連携会議と併せて開催した。</p> <p>○生活研究協議会員が地域の食材を使って調理した弁当の試食、百姓百品グループによる産直事業への取組み事例発表、8班に分かれての意見交換により、地産地消等への意識向上と食農教育への連携強化を図った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「西予の多彩な食文化を再認識する良い機会となった」「地域の食と農業の魅力を発信したい」との声が聞かれるなど、西予の食について考えるよい機会となった。</p> <p>○当班では、今回集まった意見を取りまとめ、今後の指導に反映させていく。</p>			
				<p>左：地域の食材を使った手作り弁当 右：班に分かれて話し合い</p>

標 題	地元高校生への青ねぎ収穫体験授業により 産地の認識を深め PR を実施		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和6年11月13日	場所	西予市野村町	
指導対象	(株) ノムランド	連携 機関	県立野村高校	
普及指導 内容	○当室の企画提案により、(株) ノムランドが地元高校の生徒に青ねぎの収穫体験授業を実施することとなり、当室が支援した。 ○これにより、地域特産の青ねぎについて、将来の担い手となる地元高校生の認識を深めるとともに、マスコミを通じて消費者へPRした。			
結果と今後	○参加した生徒は「これから地元の農業の魅力を伝えていきたい」と取材に答え、同社担当者も「高校生に知ってもらえてありがたい。地元で農業を担う人が出てくればうれしい」と答え、夕方のニュースで放映されるとともに、放送局HPに掲載された。 ○今後、同高校では青ねぎの加工品のレシピ開発に取り組む予定であるため、同社とも連携しながら引き続き支援する。			
				
青ねぎ栽培ほ場での収穫体験		調製方法について説明を受ける生徒		

標 題	データ駆動型栽培に係るデータ分析・活用講習会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和6年11月12日	場所	農林水産研究所花き研究指導室	
指導対象	モデル農家、JA 営農指導員、普及職員等 (40人)	連携 機関	JA、普及拠点等	
普及指導 内容	○モデル農家 (いちご・きゅうり・トマト) の園地に設置したモニタリング機器で計測したデータを栽培管理に活用するため、データ分析・活用講習会を開催。 ○株式会社誠和。からは、「環境制御の基礎について」「データの種類と活用方法」の2つのテーマで講演を行った。 ○また、花き研究指導室から環境計測機器等の紹介を行った。			
結果と今後	○基礎からデータの活用まで順序立てて学ぶことができ、参加者の環境計測への機運を高めることができた。 ○講演後の質疑では、「モニタリング機器の適切な設置位置」「モニタリングデータから栽培管理を改善する方法」など多くの質問があり、関心の高さがうかがえた。 ○講習会は1月にも開催し、データ活用による生産性の向上を目指す。			
			環境制御についての講習	

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543